

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070300688
法人名	株式会社 ウキシロケアセンター
事業所名	グループホーム いこいの里中原
所在地	福岡県 北九州市 戸畑区 中原西2丁目7-8
自己評価作成日	平成23年10月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商店街や個人営業の昔ながらの店も数多く残る、閑静な住宅街に立地しており、交通の利便性にも恵まれている。近隣の市民センターからの案内や活動を通じて、地域行事への参加や、住民との交流を積極的に行っている。「家庭の環境に合わせて在宅と同じように、自立した、穏やかな、また楽しく過ごす」という理念のもと、一人ひとりの思いに寄り添ったケアを実践している。また株式会社「ウキシロケアセンター」として4か所のグループホームと、住宅型、介護付有料老人ホームを運営しており、その経験と実績を蓄積してサービスの向上に活かしている。献立の種類も多く、家庭的な食事の提供に配慮しながら、入居者の方々の楽しみとなるよう取り組んでいる。地域の医療機関との連携を図り、往診や受診に対応しており、健康面での安心と安全につながっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年3月12日	評価結果確定日	平成24年10月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲示し、理念を共有し、在宅生活と変わらない生活が継続できるよう実践に努めている。	毎朝の朝礼で理念を唱和している。来訪者やスタッフがいつも目にする事ができるよう、玄関入口にも掲示している。「在宅と同じような状態で生活の自立を目指す」という理念のもと、支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地域の情報は入手している。心身の状況から参加できる地域行事は限られるが、外出時などは地域の方たちと談笑するなどしている。	町内会に加入し、様々な地域行事に参加している。3月末には、市民センター行事である子供会の発表会にも参加予定である。近くに保育所が新たにできる予定があり、園児との交流も計画予定となっている。地域とのふれあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流が乏しく、蓄積された認知症の知識を周辺地域へ還元するまでには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時に利用者の状況や行事の開催状況などを報告し、助言や新しいアイデアを頂きサービス向上につなげている。	民生委員は1年前から参加しているが、他に地域をよく知る、まとめ役ともなる住民も参加しており、地域の行事や、あらゆる情報の提供を受けている。地域包括支援センターからは、介護保険などの新しい情報も提供されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の疑問が生じた際は市の担当者へ連絡し助言を得る等している。	介護保険担当者や相談窓口と常に情報交換し、助言を受けている。単身者の戸籍調査や権利擁護に関する制度活用等を通じて、担当窓口や関係機関との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	直接的な身体拘束はもとより、言葉による抑制も行わないようマニュアルを作成し取り組んでいる。玄関の施錠は夜間以外行っていない。	日中は、玄関の施錠は行っていない。具体的な事例をあげ、否定的な言葉を使わないように、ミーティングの中で修正を図っている。マニュアルを作成し、職員間の共通認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で職員研修を行い、虐待防止への認識を深めている。		

福岡県 グループホーム いこいの里 中原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者が社会福祉協議会の市民後見センターの事業を利用しており、後見事業の内容について理解を深めるようにしている。	権利擁護に関する制度を活用している方もおり、区内に権利擁護センターの窓口があるため、密な連携を図りやすい。管理者による職員へのレクチャーも定期的に行っており、職員の意識も高い。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分な時間をとって契約書や重要事項説明書の内容を説明し、疑問点などは無いか確認した上で署名捺印を頂くようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に見えた際等に直接話を伺う等し、要望などがあれば可能な限りサービスに反映させるようにしている。ご意見箱はあるが、意見が投函されたことは無い。	家族からの要望などは、面会時にできるだけ聞き取るようにしている。毎月イラストつきの「いこいの里中原通信」を発行しており、健康状態、生活状況、夜間の睡眠や介護目標などの情報や、行事の写真なども家族へ発送している。家族が意見や要望を表出しやすいように配慮している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員が参加するクルーミーティングや、事業所内のミーティングを1ヶ月に1度開催し、自由に意見や提案を発言出来る。またその会議で運営上の決定も行っている。	法人として、全職員が参加するミーティングや管理者ミーティング等、段階に応じて意見や提案を検討し、情報共有や周知を図る取り組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月々の勤務予定や実績は、事業所より本社へ送付し毎月確認を受けている。 職員は職責に応じて手当を給付されている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女の区別無く採用しており、また60歳を過ぎたスタッフの採用実績も有る。勤務シフトも希望休を取り入れ、必要な時に休日をとることができるようにしている。	「常勤でなければ安心して働けない」という会社の方針から、基本的には常勤採用となっており、昇給、賞与も保証されている。採用にあたっては、年齢や性別による排除は行わないようにし、資格取得に向けた勤務調整等のサポートも行っている。月に1回のミーティングでは、研修の報告も含め、順番に講師を務めている。法人全体でも、研究発表の機会があり、すべてのスタッフが参加することを保証している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員を対象としたミーティングにて、入居者に対する接遇教育を行っている。	採用時には、会社の全体会議の中で人権教育を行っている。毎月1回のミーティングの中でも、様々な視点から意識を高めるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者ミーティングにてスタッフについての報告を行っている。外部、内部の研修に参加するよう指示があり、スキルや知識の習得を図っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業主体主催で講師を招いての講演会を行い、その際に外部にもご案内し、交流会を行うなどでネットワークが広がるよう図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴やご本人の意向を確認し、サービス計画に盛り込むようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に介護に対する要望やご本人の生活に対する希望を聴取し、面会時や電話連絡、毎月の手紙などで状態を報告している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人に必要なサービスはアセスメントしサービス計画を立案し提供しているが、施設サービス以外のサービスは提供していない。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特に日常会話などでその時々話題について、入居者と意見を交換したり、人間関係についての助言を受けたりしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り入居者と家族の接点を保つことができるように働きかけ、外出泊などの際に便宜を図ったりしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居者のご友人や、親類の方の電話を取り次いだり、面会をお受けするなどして支援をしている。	自宅や近所への訪問を積極的に取り入れ、家族や知人との関係が持続できるように、家族との外出の支援に力をいれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションをとる際には多くの入居者が会話に加わり、疎外感を感じる事が無いように配慮するようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為退居された入居者のご家族より、今後のことについて相談を受け、専門職の立場から助言をするなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやモニタリング時に本人の意向を確認するようにしている。意向聴取が困難な方はアセスメントにより抽出されたニーズによりプランを作成している。	楽しく、ストレスなく暮らせることを目標に、アセスメントシートやモニタリングの中に、本人や家族の意向確認を取り入れている。	一人ひとりの生活歴や思いが反映され、望む生活に根ざした目標を設定できるよう、より具体性のあるアセスメントを期待したい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネージャー、ソーシャルワーカー等から、できるだけ多くの情報を得るように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や業務日報により日々の状況把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聴取し、サービス担当者会議を開催し現状に適切と思われる内容で計画を作成している。	詳細なアセスメントシートを活用し、本人、家族の意向を踏まえ担当者会議を行い、介護計画を作成している。3か月に1度の見直しを行い、現状の確認と見直しの必要性について検討している。	毎日のチェック項目が多く、ファイルの数も多いため、全体が把握し難いように思える。ファイルの整理と、認知症支援へとつながる項目の観察の強化を期待します。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を作成すると共に、入居者の情報等を申し送りノート等で閲覧し情報の共有を図っている。		

福岡県 グループホーム いこいの里 中原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の事業所との連携や協力で当事業所単体では提供が難しいサービスの提供を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店への買い物に入居者と同行したり、地域の神社の祭事に際しては事業所内で御祓いを受けるなどしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の受診希望時はもちろん、毎週かかりつけ医の往診を受け、情報を密に交換し、必要があればその他の病院を受診している。	協力医により、毎週、各ユニット毎の往診が行われており、個人では2週間に1回の診察が行われている。複数の協力医療機関との連携を図り、24時間の連絡体制が整備されている。他科受診には、必ず職員が同行している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の医院に当施設の担当看護師が居り、健康状態に変化があった際は連絡し指示を受け、必要な際は受診している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合情報提供を行い、医師やソーシャルワーカーと情報交換することで入院中の診療がスムーズに行えるように便宜を図っている。また退院時期の相談などで病院側との調整を密に行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や見取りに対しての指針を入居時にご説明し、同意を得ている。	重度化した場合や看取りについては、入居時に説明し、同意を得ている。これまでに往診による点滴により、亡くなる1週間前まで対応した経験もあり、家族や医師との話し合いを重ね、事業所として出来る限りの支援を行う意向である。法人全体で、外部講師を招き、ターミナルケアに関する研修を実施している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング等で救急蘇生や応急処置の方法などを学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を実施し、災害に備えている。災害時の一時避難場所の提供の協力を近隣の住民に求め、了承を受けている。	運営推進会議に参加している消防団と地域住民の協力を得て、一時避難場所として近くの駐車場の提供を受けている。年2回、火災を想定し避難訓練を実施している。また施設も耐火建造物となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルを整備し、職員への周知を行っている。	個人情報情報は施錠しロッカーに保管している。トイレや入浴には特にプライバシーに配慮している。具体的な事例をあげ、否定的な言葉を使わないように、ミーティングの中で修正を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己の意思決定が可能な方は行事参加や嗜好品の購入の際には希望を聴取している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間などご本人の意に沿わないことを強いて行わず、ご本人のペースや希望に沿うように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪や、化粧品や衣類の購入などご本人の希望に応じて行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	使い慣れた食器で食事ができるよう、茶碗や箸や湯のみ等は個別に準備している。食事の準備や取り分け、下膳等できる部分での共同作業を行っている。	嗜好調査を行い、希望に合わせて献立を工夫している。パン食やご飯といった、主食の好みも選ぶことができる。また高齢者の食事という考えでなく、一般的に、家庭で食べている献立に配慮して調理している。誕生会には刺身なども提供される。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は毎日把握し記録している。食事の形態は嚥下状態や口腔内の状態によりご本人が食べやすい形態での提供をしている。		

福岡県 グループホーム いこいの里 中原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。必要な方は口腔清拭等に対応している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の感覚が失われつつある方へは、適切な頻度での排泄誘導を行っている。脚力が不十分な方へは夜間にポータブルトイレを設置するなどおむつに頼らない排泄習慣の確立に取り組んでいる。	排泄パターンや個別のサインの把握に努め、適時にトイレ誘導を行っている。おむつに頼らない排泄習慣の確立に取り組み、個別の状況を検討しながら、夜間についても、ポータブルトイレの設置やトイレ誘導を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や散歩等で、極力自然な排便が行えるよう支援している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、希望があれば夕食後の入浴などにも対応している。	週3回の入浴日の設定はあるが、本人の状態や希望に合わせて、時間帯や曜日も臨機応変に変更している。入浴剤や菖蒲湯なども楽しんでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体調により、適宜休息をとるようにしている。また、就寝の時間は入居者それぞれであり、寝具も入居者により個別のものを用意している。必要な方へは適宜体位交換を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の服薬管理指導を受けており、新しい処方がある毎に、効能や服用に当たっての注意点などをスタッフに周知している。また、薬剤師へ処方を受け取る際に個々の症状を伝達している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食事準備、清掃などを行い、希望がある方へは酒類の提供や喫煙が安全に出来るようサービスを提供している。		

福岡県 グループホーム いこいの里 中原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	化粧品、衣類、嗜好品の買い物などを極力ご本人の希望に応じて行うようにしている。遠方への外出希望がある際にはご家族へも協力を仰ぎ、必要な際はスタッフが同行している。	スーパーや近くのパン屋などに出かけている。散歩は個人の歩くペースにあわせ、個別対応で行っている。毎月外出を計画しており、海や花見、外食、唐戸市場などにも遠出している。家族とスタッフが同行しての外出も実現できている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所でお預かりしているが、ご本人の希望、ご家族の同意が得られている場合は現金を所持している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや私信の投函等を適宜行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は蛍光灯を使用せず、落ち着いた灯りになるようにしている。節句やお祭り等の装飾を施すことで、季節感を感じることが出来るようにしている。	3階建ての2ユニットとなるため、生活環境はそれぞれ異なるが、落ち着いた雰囲気作りを心がけている。季節行事の飾りや手作りカレンダーなどが和ませてくれている。入居者も一緒に、玄関前にアロエやゴーヤなど育て、道行く人との会話のきっかけにもなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置し、入居者同士のコミュニケーションを深める場となっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の造作は基本的に自由であり、ご本人が安心して生活できるような家具や電化製品を設置できるようになっている。	個人の居室には、それぞれ思い入れのあるものを、自由に持ち込んでいる。仏壇や冷蔵庫、空気清浄機なども設置している。職員のサポートのもと、携帯電話も使用している方もいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや各所への手すりの設置等により残存能力を活かした生活が送ることが出来るようにしている。		